

昭和興産が新中計スタート

15年度売上高800億円狙う

環境・エネ、医療など焦点

昭和興産は、創業70周年に当たる今年度(2013年1月期)を初年度とする3カ年の中期経営計画をスタートした。アジアでの事業拡大や新規テーマおよび商材の発掘・拡販などの重点施策を強力に推進。最終年の15年度に国内事業と海外事業の単純合算で売上高800億円に挑戦する。目標達成へ向けて環境・エネルギーおよび医療・介護・健康・子育て関連市場にスポットを当てた商材・ビジネスの拡大に力を入れるほか、ベトナムやインドネシアなどを候補に新たな海外拠点の開設、メーカー機能の付与についても検討していく。

アジア事業は50億円に

新中計は「躍進80」の進化を基本方針とし、新規テーマおよび商材のO計画「創業70周年から重点施策として主要取引先との強固な関係の構築を推進」の4項目を掲げアジアで活躍する企業へ「築アジア」での事業拡充、

昭和興産は、合成樹脂関連、化学品関連、情報電材関連、産業資材関連をベースに事業を展開する。今後の成長戦略における重点市場と位置付けるアジア地区にはタイ(バンコク)、上海、香港に現地法人を構える。新中計では最終年度に現在645億円規模の国内事業をピークだったリーマン・ショック前と同水準の750億円、海外事業を現在の30億円強から50億円に引き上げることが

基本戦略となる。

アジア3拠点のうち、自動車関連を中心に堅調に推移する昭和興産タイランドには12年末に日本人スタッフを2人体制から3人体制に増員した。中国は既存の2拠点をベースに事業を展開する方針で、香港拠点については引き続き華南地区の開拓に力を入れる。

新中計では、これまでの自動車関連に加え、環境・エネルギーおよび医療・介護・健康・子育て関連を新たなターゲット市場として明確に打ち出した。環境・エネ分野では、太陽電池関連、リチウムイオン電池関連、LED関連、排ガス触媒を

はじめとした既存商材の深掘りを図りながら新たなビジネスを発掘する。医療・介護・健康・子育て分野については、紙おむつ関連、医療用樹脂などの展開を強化していく。